

ひまわりデイサービス

症 例 概 要 利用者：60歳代 女性 要介護2

利用期間 ：令和6年12月 ～

現 病 ：パーキンソン病

経 過 ：平成21年にパーキンソン病を発症。発症以前は市内主催の様々な活動に参加されたりアクティブな趣味活動にも意欲的だった。病状の進行による日常生活動作の低下に伴い当施設利用となった。

内 容

氏はパーキンソン病の進行により車椅子を使用し、日常生活全般で介助を必要としている。以前は市が主催する行事へ積極的に参加するなど活動的で社交的な性格であったが、病状の進行に伴い「何もできなくなった」「迷惑をかけてしまう」と悲観的な発言が増え、涙を流される場面も見られるようになった。

そのような中でも、以前から続けていた川柳づくりだけは大切にされていた。私たちは、その姿から「シルバー川柳へ投稿すること」を目標に掲げ、「今もできること」を支える関わりを始めた。作品づくりでは、季節や日々のデイサービスでの出来事について会話を重ねながら思いを引き出し、応募作品の整理や投稿手続きまで職員が支援した。創作活動を続けられる環境を整えたことで、氏からは「次はどんな作品を書こうかな」と前向きな言葉が聞かれるようになった。

その取り組みの成果として、応募した作品が全国発売の『シルバー川柳』に掲載され、さらに地元新聞『河北新報』でも紹介された。掲載された本を大切に抱えながら「私の作品が載ったんだよ」と恥ずかしそうだけでも誇らしげに見せてくださる姿は、以前「何もできない」と涙を流されていた氏とは別人のような笑顔だった。「こんなことが自分にもできるなんて思わなかった」「次も頑張ってみようかな」と前向きな言葉も聞かれるようになり、その喜びはご家族や他ご利用者、職員にも広がった。「先生、また新作を楽しみにしています」と声を掛けられるたびに創作意欲が高まり、川柳は人との会話や交流を生み出し、氏にとってデイサービスでの役割や生きがいとなっていった。

疾患の進行によって失ったことではなく、「今だからこそできること」を支えることで、その人らしさや自信、生きがいを取り戻すことにつながった。今後も、一人ひとりの思いや強みに寄り添い、「できること」を大切に支援を継続していきたい。

【関わった職種】

看護師：体調管理、声掛け

介護：日常のデイの取り組みから川柳作成に繋がるような支援

リハビリ：生活動作向上に向けたリハビリ、声掛け